



# 医師確保対策を推進しています

県内どこにいても同じように医療が受けられる環境づくり、救急や周産期医療体制などを整備するために医師確保が重要となっています。そのため、県内の医療機関で研修・勤務を希望する医師が増えるよう、さまざまな対策を講じています。

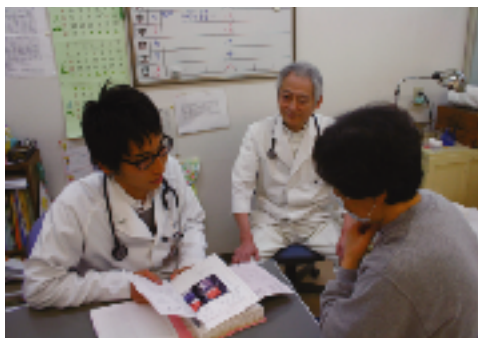
## 進めています、 医師確保対策事業



全国的に医師不足が深刻になっていますが、本県も例外ではありません。そこで県では、平成十八年四月に「茨城県医師確保支援センター」を設置し、医師確保総合対策事業に取り組んでいます。

将来、県内の医療機関に勤務する意思のある県外医学部進学者に対し、修学資金貸与制度を設けたり、「いばらき地域医療研修ステーション」で、医学生・研修医やUターン希望の医師に研修の場を提供しています。さらに、地域医療を担う医師の養成を目的とした自治医科大学の卒業医師を医師不足地域に派遣しています。来年度からは、筑波大学医学群に設けられた五人の地域枠入学者に対し、将来県内の医療機関で従事することを条件に修学資金を貸与します。

研修医の受け入れ促進では、県内臨床研修病院、茨城県医師会と協力し、「茨城県医師臨床研修連絡協議会」を平成十八年度に発足させました。臨床研修体制の整備とさら

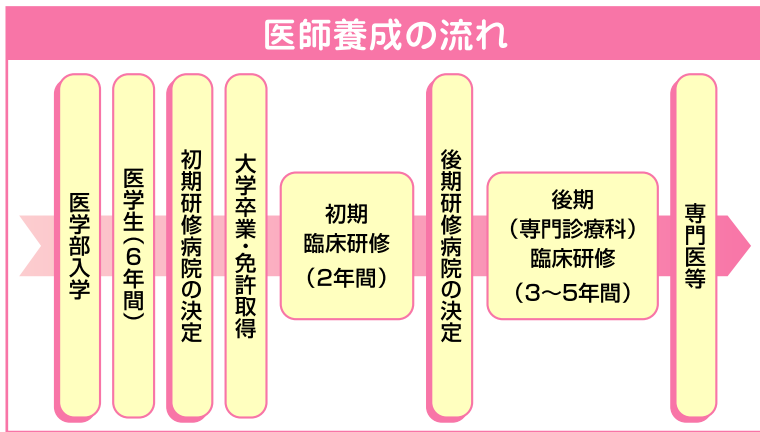


(上) 地域医療研修ステーションでの臨床実習  
(下) 指導医養成講習会

なる充実を目指し、「指導医養成講習会」の開催（平成二十一年二月現在、六七八人修了）や、県外の著名医師を招いて行う「指導医シンポジウム」など指導体制の充実のための事業や、医学生向けの「研修病院合同説明会」など研修医の募集事業などを行っています。

県内臨床研修病院では、毎年新たに百人以上の研修医が採用されています。県では、研修医を受け入れた病院への補助金や、県内で勤務した研修医への奨励金などの支給も行っています。現在、県内の医師全体における女性の割合は約十七パーセントですが、近年の医師国家試験における女性の割合は約三十五パーセントと年々増加傾向にあります。このため、女性医師の働きやすい環境づくりのために「子育て支援奨励金」や女性医師向けホームページの充実など、女性医師の就業支援のための施策を実施しています。

医師養成の流れ



研修医の受け入れ促進

ひたちなか市にある(株)日立製作所水戸総合病院では、五年前から初期臨床研修医の受け入れを始め、近年は毎年十人前後が研修医として勤務しています。

研修の特色は、大学病院に比べて病院の規模がコンパクトなので、医療や各科の全体像が見えやすいこと。また、訪問看護ステーションや検診センターなどもあり、在宅医療、疾病予防活動の修得も可能です。

研修責任者の山内孝義副院長は、

「指導にあたっては、患者さんの病態をスタッフに正確に伝える、コミュニケーションに重点を置いています。研修により自分の能力を高め、ここで得た能力を患者さんやみんなのために使っていきたいという気持ちがある、自然に芽生えるように見守っています」と話していました。

研修医の皆さんによると、「大学病院では治つたら地元に戻られますが、この病院では外来に通院されま

す。元気になった患者さんの姿が見られ、自分たちの治療でこんなに元

気になられたんだと実感できます」

「いい医者になってほしいという思いが強い先生方のもとで研修できる

ことが、心強いです」とのこと。

「研修医を育てながらスタッフも育ちます。相手のためにどうしたらいいかを考え、教えながら育つ連鎖を続け

ていきたいです」と、熱意を持って研

修に取り組む山内副院長です。



研修責任者である山内副院長と研修医

がんばる女性医師



土浦市の(独)国立病院機構霞ヶ浦医療センターに勤務する産婦人科の新井ゆう子先生は、結婚・出産後も医師の仕事が続いています。仕事を休んだのは、産前産後の休暇期間のみ

が、現在のように医師も利用できる院内保育所のある病院は少なく、子

どもは小さいころから、勤務中は実家に預けていました。また産婦人科

の場合は、時間が不規則で、いつ呼び出しがあるか、いつ帰れるか分からない状況なので、託児所に預ける

のは無理でした」と、子育てを振り返る新井先生。

女性医師が仕事を続ける上で大事なことを伺うと、「結婚・出産をするなら、まずは家族・勤務先・上司

の理解とサポートがないと続けられない」ということです。

現在勤務する霞ヶ浦医療センター

県の支援事業紹介

◆医学生への医師修学資金貸与

本県出身者で、県外の医学部に進学している医学生に修学資金を貸与します。

面接:平成21年5月6日(水)  
県立図書館会議室3

応募期間:平成21年4月1日(水)  
~4月28日(火)

募集人員:10人程度

返還免除:貸与を受けた期間と同じ期間、県内の医師不足地域の医療機関で勤務した場合

◆研修病院合同説明会開催!

県内病院で研修希望(初期・後期)の皆さんのご参加をお待ちしています。

東京会場:平成21年3月15日(日)  
秋葉原ダイビル

つくば会場:平成21年3月29日(日)  
つくば国際会議場

◆i-doctor登録募集!

~Let's work in ibaraki! We assist your dream~

医学生や県内外で医師として勤務している方の登録をお待ちしています。

茨城県医師確保支援センター  
☎029-301-3191 ㊟3199  
✉i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp



(独)国立病院機構 霞ヶ浦医療センター 産婦人科医長 新井ゆう子医師

では、子育て中の女性医師を支援しています。子どもが三歳になるまで育児休業ができた、小学校就学までの期間は短時間勤務が可能なのは、院内に保育所も完備しています。

お子さんが小学校高学年になった今、「医師はずっと続けていきます。患者さんの立場で考え、女性ならではの診療をしていきたいです」と、新井先生は意欲的です。

これからは女性医師が働き続けることができる環境づくりを進めることが、医師確保の上でも重要な課題となっています。